1000m TRANSIT STATION

1000m のトランジットステーション

首都高は街の大きな屋根である。

その大きな屋根の下に、スローモビリティのための 1000 m のトランジットステーションを提案する。

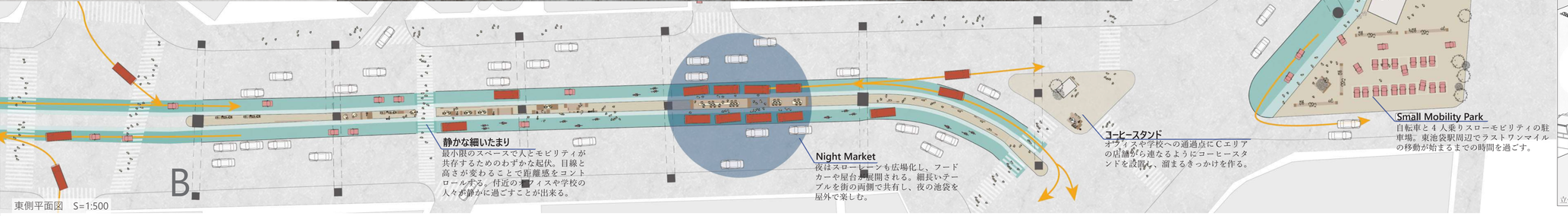
池袋には学生や家族連れ、アニメファンなど多様な人それぞれがホットスポットやホットロードを持つ。しかし、それらは街に点在し、互いに交わることは少ない。

そこで、現在整備が進められている時速 19km の低速電気バスの”楽しめる”トランジットステーションを首都高の下につくる。首都高で分断された東西の移動を促進するだけでなく、大きな屋根のもとに人が集まり、いつもとは違うルートに乗り換えるきっかけとなる。

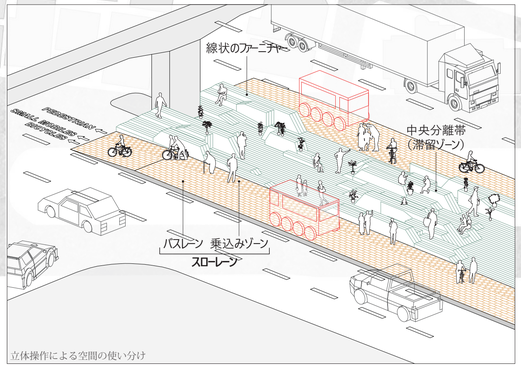
いつもと違う道をゆっくりと巡る。他者のお気に入りの場所を知り、「自分の知らない池袋」を発見することに繋がる。このトランジットステーションでは 3 車線のうち最も内側の車線を「スローレーン」とし、交通量の少ない時間帯に電気バス・歩行者のための道として開放する。

挿入されたスローモビリティが人の流れに溶け込み、道に施された起伏やテクスチャによりアクティビティが刺激される。

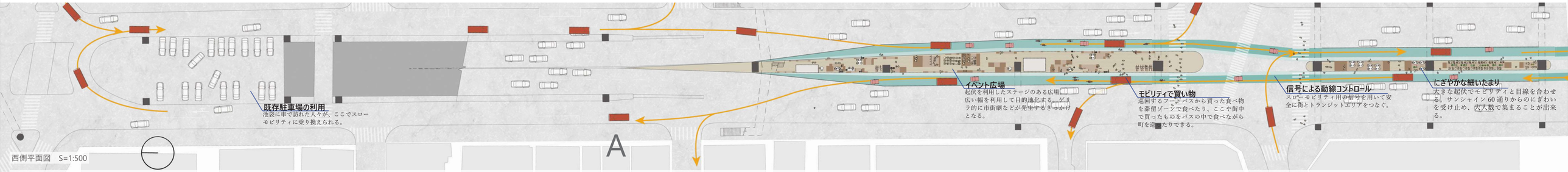
広場を北側より見る　スローモビリティがスローレーンを走り、起伏のある中央分離帯に人々が集う



東側平面図　S=1:500



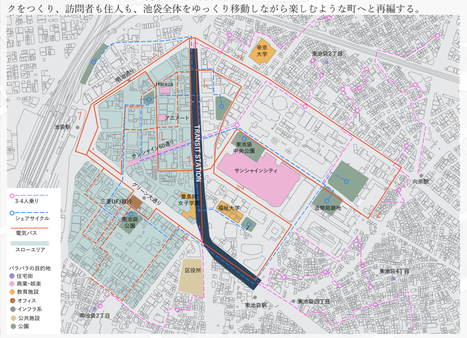
立体操作による空間の使い分け



西側平面図　S=1:500

■池袋をスローモビリティーで再編

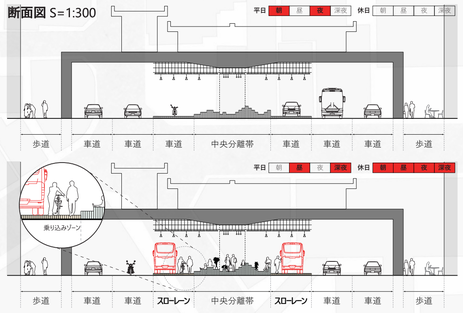
池袋は様々な機能が散在し、多様な人々が訪れると同時に、住宅地としての性質ももつ。しかし、現在この首都高は駅周辺の商業圏と住宅地を隔てる境界になっている。そこでここに低速電気バスを中心としたスローモビリティの拠点を提案する。池袋に散在する公園とともにスローモビリティのネットワークをつくり、訪問者も住人も、池袋全体をゆっくり移動しながら楽しむような町へと再編する。



■スローレーンの導入とシステム

首都高下の道路のうち両側一車線をスローモビリティのためのレーン、スローレーンとすることを提案する。スローレーン上では時速 19km の低速電気バスのほかに自転車や四人乗りのスモールモビリティなどが走る。信号の制御により、交通量の多い時間帯は、車道として利用され、交通量が少ない時間帯にスローモビリティに開放するレーンとなる。

断面図 S=1:300



■ 時間によるアクティビティの変化

巡回の低速電気バスがバスが運行する日中は、人々はスマホで次の場所を検索するのではなく、バスでゆっくりと池袋をめぐりながら次の目的地を決める。このトランジットステーションでバスや他のモビリティと乗り換え、様々なスピードで池袋を楽しむ。この場所は移動や遊び、仕事や日常の合間に過ごす場所として人々が溜まっていく。夜間はスローレーンにフードカーなどが停まり、ナイトマーケットが開かれる。

夜は歩行者にも開放され、ナイトマーケットが開かれる　　日中はスローレーンとなり、オンデマンドでスローモビリティに乗り込む

■ 地面の起伏によるモビリティとの共存

首都高がつくる屋根の下に、人々の居場所を作る。屋外でありながら人が長く滞在する場所となるため、インテリア的な設えとする。家具のスケールで様々な場所をつくり、起伏が横を走るモビリティとの距離をコントロールする。地面の舗装をモビリティに合わせて変えることで、自然な棲み分けを促す。

日中はスローレーンとなり、オンデマンドでスローモビリティに乗り込む